

だける方、お子さんのス
話題を募集しています!
課まで。

寒さに背中を丸めがちですが、背を伸ばせばふとした風景の中に、何か新しい発見があるかもしれませんね。みなさんは、どんなものを見つけるのでしょうか。

◎前回の答え（1／1）と当選者

問1－③まゆ 問2－②強さ
問3－①防災とボランティア

正解総数19通（応募総数19通）の中から抽選で、小出沢美由喜さん（川岸中1）、久保田あや子さん（赤羽3）、澤田房子さん（川岸上4）、笠原とも江さん（湖畔2）、小池栄美子さん（川岸中1）にオリジナルスプーンをお送りします。



問1 平成19年度から所得税と〇〇税の税率が変わります。
答え ①消費税 ②住民税 ③自動車税

問2 4月1日から助役が〇〇になり、収入役が廃止されます。
答え ①副市長 ②会計管理者 ③市長補佐

問3 メタボリックシンドロームの診断で、腹囲を図る基準はこの高さです。
答え ①胸 ②へそ ③腰

ヒント…記事を読むと…。

◆広報クイズ応募方法

はがきに、答えの番号、住所、氏名、年齢、電話番号、ひと言を書き、広報クイズ係《〒394-8510 岡谷市役所（住所不要）》までお送りください。抽選で5名の方に武井武雄ラムラム王オリジナルスプーンをお送りします。2月20日の消印まで有効。（ひと言は15日号「みんなの声」に掲載させていただく場合があります）

今年の大河ドラマは、風林火山ですね。歴史が好きな方や諏訪地方にゆかりの地が多いので観ている方もいらっしゃると思います。

由布姫ゆかりの地、湊の小坂観音院の近くでは、味澤製糸の味澤宏重さんと正木屋商店の小坂勝彦さんと味澤酒店の味澤紀子さんの3人が、おみやげ物のお店を開いています。

どんなおみやげを売っているのでしょうか。訪ねてみました。

小坂観音院は、由布姫が勝頼を出産した後、病を患い余生を過ごした場所であると伝えられていて、供養塔があります。参拝に来る人たちが、寂しくないように、昨年の11月中旬から一ヶ月くらいかけて準備をしたそうです。

岡谷にふさわしい地元の特産物が揃っていました。シルク製品や切り絵、七宝焼き、お酒、お菓子などです。なかでも、

市民しポーター だより

浜 まゆみさんの
由布姫ゆかりの里おみやげ処レポート

地域一丸となつてのお出迎え

わかさぎや、うなぎなどの川魚はよく売れているそうです。生寒天を地元の味噌で漬けたものと、黒ごまきな粉であえたものを試食させていただきました。味澤紀子さんの手作りです。おいしくてヘルシーなのがいいなと思ったので、漬物用の味噌と生寒天の味噌漬けを買いました。

おみやげには、由布姫のシールが貼ってあります。

大阪からバスツアーのお客さんなど観光客もたくさん来ているそうです。

また、ご近所の人たちが、漬物を持ってお手伝いに来てくれたりと、地域のみなさんであたたかく迎えてくれます。

夏はあじさいがきれいだという小坂観音院にも行ってみました。歴史を感じる太くて高い樹に囲まれ、湖畔にはまだ家がなくすぐそばまで湖だったという由布姫の時代を思いながら、諏訪湖を眺めることができました。



▲左から、小坂 勝彦さん、味澤 紀子さん、市民レポーター浜 まゆみさん、味澤 宏重さん

ヤングナウ NOW YOUNG NOW

No.201

みんなの

一品料理を紹介していた
ナッパ写真、また身近な
企画



夢は逃げない 逃げているのは自分

か とう こう へい
加 藤 康 平 さん

Q やりがいは？
A お客様に喜んでいただくことはもちろん、知らなか

Q 大変なことは？
A 弱い自分と戦うことが大変です。

Q どうしてこのお仕事？
A 両親が横内伸仁さん（綱引き日本代表）と知り合いで、自分も小さい頃からお世話になっており、横内さんの下で仕事だけでなく、横内さんの生き方などを勉強してきました。

Q お仕事の内容は？
A 制御機器の製造販売メーカーで、営業をしています。

Q 愛知県出身で、『東洋技研株式会社』にお勤め3年目になる、加藤康平さん。

Q 将来の夢は？
A 年代層にあった青春時代がおくれるような空間をつくりたいです。

Q 休日の過ごし方は？
A ほとんどは横内さんのご家族と一緒に過ごし、ご飯まで食べさせてもらっています。綱引きの大会へ応援に行くこともあります。今年からは自分も挑戦する予定です。

Q 気をつけていることは？
A お客様に失礼のないようにすること、感謝の心を忘れないようにしています。

Q 応援してもらったり感動をいただけることです。

Q った事を知ったり学んだり、

応援してもらったり感動をいただけることです。

子どもの目からみた世界

毎年、国際交流員の活動として市内の保育園や小学校等を訪問して、子どもと交流をしています。「私はどこから来たと思う？」って質問をしたら、「ネパール」「アメリカ」「韓国」「ディズニーランド」のような返事がきます。4、5才の子どもが「ネパール」のことを知っていて、また子どもにとっては、ディズニーランドが外国のようなところとされていることにびっくりします。できるだけ、英語の絵本の読み聞かせ、ゲーム、歌などを通して、自然に子どもと接しながら、ニュージーランドやニュージーランドのことを色々伝えます。「季節が日本と逆だ！」「ニュージーランドは日本と3時間の時差があるよ！」と教えると、子どもは不思議がります。

先日、ある保育園で園児と給食を食べていると、周りの子どもからどンドン質問されました。「セーラさんは

何型？」「セーラさんは何座？」「セーラさんは何才？」などのようなことを聞かれました。ある子どもが、私の目の色が日本人と違うと気づいて、びっくりしました。「私の目はみどりだよ」と言ったら、「違うの、濃いみどりでしょう！」と言われました。「みどり」と「濃いみどり」が違うのかなと園長先生と笑いました。やはり子どもは鋭い！

「赤い目の外国人はいるの？」「セーラさんの国では、本が英語で書いてあるの？」「***は英語で何って言うの？」。やはり、子どもは日本以外の世界に好奇心を持ちます。

岡谷市には24ヶ国、1000人以上の外国籍の市民が共に暮らしていることは、多くの市民はまだ知らないことです。これからも周りに住む外国人が増えることは間違いないので、若い頃から同じ市民として、

子どもに外国人に触れる機会や外国の文化等を知る機会を与えることが大事だと思います。

Kia ora!!



国際交流員の
セーラ・アキレス です

No.27